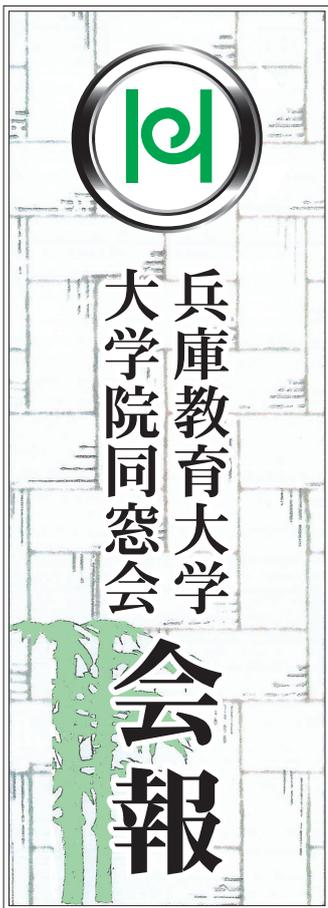


# 第49号

令和7年（2025年）3月発行

兵庫教育大学大学院  
同窓会 広報部



## 同窓会のさらなる進化を

同窓会 副会長  
渡邊 哲郎



令和七年を迎え、同窓会の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

巳年は、西暦を十二で割った際、あまりが九となる年で、へび年とも呼ばれます。漢字の巳は胎児を描いたもので、草木の成長が極限に達して次の生命がつかられ始める時期を表します。巳年は成長と変化の年であり、新しい自分生まれ変わることがテーマとされています。また、蛇は再生や進化を象徴する存在

であり縁起のよい年とされています。

さて、同窓会会則第二条をひもといてみますと、「本会は、会員相互の親睦を図るとともに、学校教育に関する諸問題について意見を交流すること」が目的として記されています。対面で行われるようになって昨今、研究大会はもとより役員会においても会の趣旨・目的が達成されていると思います。オンラインの参加も活発に行われながら、会員相互のつながりが深まることを願っています。

昨年八月三日・四日に開催された第四十三回全国研究大会「盛岡大会」では実行委員長様をはじめ岩手県支部の皆様と運営により「予測困難な社会を生き抜き日本や世界で活躍する人材の育成を目指して〜岩手からの提言〜」を大会テーマにして震災を経験した岩手の復興と教育、未来に向けた取組など、岩手の思いと情熱が伝わる大会となりました。

今年七月二十六日・二十七日に第四十四回全国研究大会「高知大会」が高知市で開催されます。学校・家庭・地域

の連携による社会教育に視点をあて、コミュニティ・スクールの取組に関する研究大会と伺っています。子ども・学校・地域の未来を見据えた、今日的な研究に対して、大きな期待を感じています。

さらに来年は、兵庫大会が予定されていると伺っています。新しいキャンパスに会員が全国から集う日を楽しみにしています。

巳年が象徴しているように成長・進化していく兵庫教育大学大学院同窓会でありたいものです。兵庫県を中心に各地で繰り広げられる全国研究大会を、全国の各支部が手を取り合って応援しているではありませんか。

## アプリ開発？

### OSの切り替えです！

兵庫教育大学 理事・副学長  
吉水 裕也



大学院同窓会の皆様には、平素より大学の運営および教育研究活動に多大なご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

さて、ご承知の通り、本学では教員養成フラッグシップ大学に採択されて丸三年が経ちました。すでに、学部では令和六年度入学生から、新カリキュラムがス

タートし、教職大学院でも令和七年度から共通基礎科目に新設科目が導入されます。教員養成フラッグシップ大学は、これまで建て増しの積み上げられてきた教職課程を抜本的に改革しようとするプロジェクトだとの認識のもと、本学では精一杯の取組をしてきました。現代的な教育課題への対応は、その時その時で大変重要な意味を持っていますが、これまで前述の通り、個々の課題への対応中心で、例えて言うなら、専用アプリケーションを開発することで乗り切ってきたと言つてよいでしょう。そのため、気がついてみると画面上にはアプリだらけとなつてしまったというわけです。もちろんどのアプリも重要ですから捨てるわけにはいきません。一方、フラッグシップ大学に求められたのは、既存の科目の削減を含めた、新たなブランドデザインです。アプリ開発の前提となるOSの開発と、その上で動くアプリ開発です。本学では、教員養成スタンダードというOSと、その上で動くカリキュラムという統合型アプリの開発を行ってきたのです。OSが変わった（観が転換した）のですから、大変革です。そのような取組を本学は今後もリスクテイク的に続けていくこととなります。

これまで取り組んできた教育研究活動を基盤に、何を積み上げればよいのかを考えていく上で、同窓会の協力は欠かせません。大学院同窓会の皆様には、これまでに培ってこられた豊富な知識と、数々の困難を乗り越えてきた経験に裏打ちされた意志を、是非本学のためにもお使いいただきたく存じます。望ましい未来を創るためにも、今後とも一層のご支援をお願いいたします。

# 支部活動の紹介(5)

## 高知県支部

### 高知県支部長

野村 ゆかり



高知県支部は、これまで支部活動が十分活性化せず、停滞しておりました。

このような状況の中で、令和5年度全国研究大会が大阪・奈良・和歌山の共同開催されたことに刺激を受け、ぜひ高知大会を実現して活性化させたいとの思いを東中国・四国ブロック(鳥取・岡山・愛媛・高知)の鷺見ブロック長に伝え、相談しました。鷺見ブロック長や役員の皆さまの後押しもあり、東中国・四国ブロックとして全国大会高知大会を実施することが決定しました。令和6年度には、船本同窓会副会長のテコ入れもあり、高知県のメンバー2名を加えた各県委員(各県より3名)による実行委員会をつくり、7月6日に大会準備会を行いました。そして、組織づくりと役割分担、全国大会までの道筋について協議して、大会概要を企画しました。

さらに、大会準備もかねて、11月23日に東中国・四国ブロック研修会を高知で行うこととしました。全国大会の

研究発表のテーマを「学校教育に社会教育・生涯学習の横ぐしをさす」としていることから、それに先駆け、高知社会教育・生涯学習研究会を立ち上げ、ブロック研修会の午前中には、こうち社会教育・生涯学習研究大会を実施しました。大会テーマを『高知における社会教育(生涯学習)の取り組みを知ることを通して、「社会教育」「生涯学習」について学び、それを支える『社会教育士』の役割について周知する』としました。島根・香川・高知大学で社会教育主事講習を受講した社会教育主事と社会教育士等(兵庫教育大学教育政策リーダーコース修了生の7名の社会教育士を含む)27名が参加して、活動報告や実践交流を行い、社会教育人材の



自由民権記念館見学

ネットワーキングを図りました。

午後からは、午前中に参加した者を含め、総勢35名の参加を得て、ブロック研修会を行いました。昨年は民選議員設立建白書提出から150周年であることから、会場は自由民権記念館で、館見学の案内人を筒井秀一館長に、続いて『自由は土佐の山間より』という演題で



社会教育士レディーススペシャル鼎談

ご講演いただきました。その後、「社会教育士レディーススペシャル鼎談」と題して、教育政策リーダーコース修了生であり、一般社団法人や研究所を設立している社会教育士の3人の『個別最適な学びと育ちの居場所づくり』についての活動報告がありました。

研修会終了後、全国大会の会場となるオーテピアの見学や懇親会を実施して、全国大会への機運をあげることができました。

令和7年7月26日の全国大会では、研究発表の1本目は、高知社会教育・

生涯学習研究会が活動報告することにして、社会教育主事と社会教育士の活動の可能性を問う場としたいと考えています。また、2本目は、文科省の社会教育士ポータルサイトにも紹介されている安田隆人氏に「社会教育魂を活かした学校づくり・地域づくり」について報告していただきます。安田氏には、社会教育主事・校長・岡山県地域学校協働活動アドバイザーとしてのご経験からお話しいただくことになっていきます。ぜひ、令和7年度同窓会総会第44回全国研究大会高知大会にご参加くださいますよう、よろしく願っています。

### 令和7年度 同窓会総会 第44回 全国研究大会 【高知大会】(ご案内)

- ・日時：令和7年7月26,27日(土・日曜日)13:00～
- ・会場：『オーテピア』高知県高知市追手筋 2-1-1
- ・開催方法：ハイフレックスを予定
- ・情報交換会、巡検(高知市内の散策)

桂浜・坂本龍馬記念館 牧野植物園 等

お近くの同窓生・同期生をお誘いの上、奮ってご参加下さい。実りある研究大会、懐かしい研究大会にしましょう。

# 令和6年度 兵庫教育大学大学院同窓会総会 第43回全国研究大会【盛岡大会】

令和6年8月3日(土)サンセール盛岡において、大学院同窓会総会・全国研究大会【盛岡大会】が開催されました。盛岡は「盛岡さんさ踊り」の真っ最中で、街は「さんさ踊り」一色の活気に満ちた雰囲気の中、岩手県支部の皆様が丁寧な準備と運営で、会場とオンライン参加者が一体となった大会を成功裡に終えることができました。

震災を経験した岩手の復興と教育、震災を後世に伝えるための取り組みや未来に向けた取り組みなど、逆境をバネに復興を成し遂げた岩手の思いが伝わってくる大会でした。盛岡大会実行委員長様をはじめ、副委員長様、事務局長様、大会実行委員の皆様深くお礼申し上げます。参加者は、会場47名、オンライン12名、総勢59名でした。

## 大会実行委員長 山本 勉

令和6年度同窓会総会及び第43回全国研究大会を、本学から遠く離れた岩手・盛岡の地で、学長加治哲也様をはじめたくさんのご来賓のご出席を賜り、オンライン参加を含め全国各地から多くの参加者をお迎えして開催できま



したこと、たいへん嬉しく思います。岩手県支部としては、18年ぶり3回目となる大会開催でしたが、ご参加くださったお一人お一人の熱い想いと飽くなき向上心に支えられ、成功裡に終えることができましたものと、スタッフ一同自負しております。

大会テーマ「予測困難な社会を生き抜き日本や世界で活躍する人材の育成を目指して」岩手からの提言」のもと、東日本大震災からの復興にかかわる教育実践の発表、幾多の試練を乗り越え未来を見据える三陸鉄道社長様のご講演、さらには、情報交換会でのさんさ踊り演舞、ニューヨーク・タイムズ紙「2023年に行くべき2番目の都市」盛岡の巡検と、盛りだくさんのプログラムでしたが、岩手ならではの教育実践や岩手・盛岡の風土の一端を感じ取っていたのではないのでしょうか。折しも、第4期教育振興基本計画初年度の年、教育界では「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が求められています。これまで実践されてきた岩手の復興教育プログラムは、「今は苦しいかもしれないが、自分の人生の目的や意義のためにがんばる、その先に持続的な幸福がある。」「自分だけでなく、家族・地域・社会の周りも幸せや豊かさを感じる。」とができる。」というコンセプトに通じる

ものであると言えます。今大会の成果が、ご参会の方々のみならず、同窓会員皆様の研究、実践の糧となることを心から祈っております。改めて、大会にかかわってくださいました全体的の方々に感謝とお礼を申し上げます。たいへんありがとうございました。

## 大会副実行委員長 堀切 茂 行

兵庫教育大学大学院を修了して、25年ほど経ち、社からは遠く離れてしまいましたが、加治佐学長は、岩手に何度も足を運んでくださいました。10年ほど前に久慈地区にお越しいただき、懇談する機会があったことを思い出します。本研究大会で、岩手県の教育の要諦である「復興教育」に関わる実践を発表していただきました。菅野先生による「大槌の教育復興における地域の存在に関する考察」と坂井先生による「被災地におけるいわての復興・防災教育の推進」の2つは東日本大震災津波を経験した岩手県ならではの発表だったと思います。

また、三陸鉄道株式会社社長石川様による「光り輝く三陸を目指して」開業40周年を迎えた三陸鉄道の未来」からは、試練を乗り越える岩手のたくましさを感じることができました。今回、ご縁があり、大会運営に携わらせていただきました。全国からの参加者とオンライン参加の皆様参加を得



て、有意義な大会になったのではないかと思います。大会に関わってくださいました多くの方々に感謝申し上げますとともに、次回高知大会の成功を祈念いたします。

## 大会事務局長 小山 文明

東日本大震災発生から13年。今回の全国大会を開催するに当たり、「岩手ならではの、岩手でしかできない大会にしたい」と考え、テーマを「予測困難な社会を生き抜き日本や世界で活躍する人材の育成を目指して」岩手からの提言」といたしました。このテーマで開催させていただいたことに、まずもって感謝申し上げます。



短い期間の中で、岩手県支部会員が団結し、実りある大会にしようという一心で準備を進め、当日を迎えました。大会後、参加者の方々に「東日本大震災から復興に向けて、たくましく生きていく岩手の人々の姿を見ることでできた大会だった。」「岩手ならではの内容とテーマが良かった。」等の称賛のお言葉を頂戴し、大変嬉しく思っております。加治佐哲也学長様をはじめご臨席を賜りました全ての方々のおかげで成功裡に終わることができました。心より感謝申し上げます。

最後に、次回の高知大会が一層充実した大会になることをご祈念申し上げます。

学長講和  
「兵庫教育大学の新しい取組」

兵庫教育大学  
学長 加治佐 哲也 氏



盛岡には、2011年に東日本大震災があり、その数ヶ月後には兵庫教育大学としてどういう支援ができるかということでもこちらにきたことがあります。いわゆるPTSDの観点から被災地の子供の心のケアに率先して取り組みました、その連絡調整で県庁や教育委員会を訪問した覚えがあります。

岩手県支部は熱心に研究会を実施されており、岩手県で研究大会ができることを本当に嬉しく思っております。

変化の激しい社会の中で、本学も生き残り、かつ存在意義を発揮するために常に変化しております。3年目を迎えた教員養成フラッグシップ大学では、子供たちの自ら学ぶ力を引き出せる教員の養成を目指して、新しい教員養成スタンダードを開発しました。フラッグシップ大学が独自に開設できる科目の一部が今年度から実施されており、受講した学生からは上々の評価ですので、今後他大学等に広まっていってほしい。

大学院における学びの効率性・利便性が向上しています。兵庫教育大学の

大学院生の割合は、派遣は変わっていませんが、フレックスクラスが増加しています。フレックスクラスに不可欠なオンラインの普及により、働きながら学ぶ現職教員が多くなっています。昼間クラスでも、オンラインと対面を有効に活用した学びが普及し、学びの広さと深みが増し、学生による授業評価が高くなっています。

教員就職する大学院学生の奨学金返還免除制度が導入され、国として大学院を出た教員を増やす政策が動き出しました。教員養成の高度化が進むと思えます。

兵庫教育大学の取り組んでいることと教育の未来展望について、貴重なお話をいただきました

記念講演

「光り輝く三陸を目指して」  
開業40周年を迎えた三陸鉄道の未来へ

三陸鉄道㈱ 代表取締役社長  
石川 義晃 氏



三陸鉄道は、1984年の4月1日に日本初の第三セクター鉄道として開業し、今年で開業40周年を迎えました。三陸鉄道は、地域住民の足の確保、三陸の地域振興に貢献するという2つの役割を担っています。三陸鉄道開通顕彰

碑には「後進よこの業の上に更に三陸の未来を建設せよ」と彫られています。三陸鉄道は苦勞してできた鉄道ですが、そこがゴールではなく、この鉄道を使つて三陸地域の振興にしっかりと取り組むようというメッセージが顕彰碑に込められています。

東日本大震災の発生では、三陸鉄道も甚大な被害を受けましたが、全線復旧を目指しました。震災から3年後の2014年の4月に南リアス線と北リアス線の全線が開通いたしました。沿線のみなさんは、大変喜んでくださいました。

2019年3月、釜石―宮古間はJR東日本から三陸鉄道に移管されました。2019年には、ラグビーワールドカップが行われ、被災地で唯一釜石の鶴住居復興スタジアムが会場となり、三陸鉄道では毎月10万人のお客様が乗車されました。しかし、この年、台風19号が上陸し、三陸鉄道は約7割が運行できなくなる被害を受けました。多くの企業からお力添えをいただいて、2020年3月20日に全線を復旧させることができました。この春には、新型コロナウイルスが全国に広がり、多くの団体旅行がキャンセルとなりました。

三陸鉄道は開業から40年、厳しい経営環境が続いています。何よりも沿線の人口が減っています。人口減少に伴い、高校の統廃合も進んでいます。観光の形も団体旅行から個人旅行に変化してきましたし、マイルール意識も希薄化してきています。三陸鉄道としては、観光の方に力を入れていかなければいけないと考えております。

三陸鉄道の4つの取組を紹介します。

1つ目は、安全かつ安定した輸送の確保です。2つ目は地域にご利用いただける鉄道に向けた取組の強化ということで、今年の3月に宮古駅にエレベーターを設置しました。また、デジタル技術のスマホ用三鉄アプリを導入しました。3つ目は、企業・団体・行政と連携した交流人口の拡大ということで、年間を通してこたつ列車などの企画列車を運行しています。4つ目として、企業・団体・行政と連携した情報発信、物販、販売も行ってまいります。情報発信については、フェイスブック、ホームページ、Xを活用しています。これからは、外国語を含めて情報発信に力を入れていかなければいけないと考えております。

最後に最近のトピックスです。1つ目は、宮古市で令和6年の7月から9月に、三陸鉄道やバスに無料で乗車できるフリー乗車券を全ての宮古市内の中学生に配りました。中学生が高校に進学して鉄道やバスを利用することを期待しています。2つ目は、震災学習列車です。東日本大震災で多くの方から支援を受けた三陸鉄道にとって、震災の記憶、復興の様子を語り継いでいくことは大きな責務であると考えております。3つ目は、インバウンドについてです。みちのく潮風トレイルの全線開通、クルーズ船の寄港で、外国人観光客が増えていますので、しっかりと対応していきたいと考えております。

三陸鉄道は山あり谷ありで、厳しい経営環境が続くと思いますが、県・市町村・企業・団体・行政と連携しながら地域のみなさん、観光客のみなさんに喜んでいただける鉄道会社として発展していきたいと考えております。

### 教育実践発表Ⅰ

「算数教育における共調整の効果  
―指導と評価の一体化の検証―」

盛岡大学文学部児童教育学科  
准教授 吉田英彰

【直前のコロナ感染により  
急遽ビデオ発表となりました】

兵庫教育大学大学院で2年間学ばせていただいたあと、9年間小学校の現場で教育に取り組みました。現在は、盛岡大学において教員養成と研究をしています。



大会テーマは「予測困難な社会を生き抜き日本や世界で活躍する人材の育成を目指して」でした。宮沢賢治は、自然や社会への洞察をもとに現代にも通じる重要なメッセージを送っています。大谷翔平選手は、自分自身や相手をつぶさに分析しプレーに生かしています。2人の岩手県出身者に共通するのは、評価の力だと私は捉えています。

教育においても、指導と評価の一体化は依然として重要です。協働的な学びは、学びのニーズに応じたものでないという形だけの活動になってしまうことでしょうか。学びのニーズに応じた協働的な学びにより共調整が促されます。その際に、物事の質が良いかどうかを判断する力(評価判断力)が教師や友達と共有でき、その結果、自己調整が促されることが明らかになってきました。

情報提供として、生徒指導や保護者対応における生成の活用例も紹介させていただきます。

### 教育実践発表Ⅱ

「大槌の教育復興における  
地域の存在に関する考察」

大槌町教育委員会 統括教育専門員  
兼 兵庫教育大学教育政策リーダークース  
准教授 菅野祐太

大槌町は東日本大震災で甚大な被害を受けた。大槌町はその後続く震災復興の一つの軸に教育を据え、取り組んできた。大槌町が取り組んだ教育復興には大きく3つの段階があつたと仮定し、本考察ではキングダムの政策の密理論を援用しながら3つの段階によつてどのような違いがあつたのかを分析した。キングダムの政策の密理論では問題であると人々に認識される問題の流れ、多様な政策アクターによる解決策が具体的に提示される政策の流れ、意思決定を行う政治家がそれを重要だと考え、決断しようとする政治の流れの3つの流れが合わさった時に政策の窓が開き、具体的な政策となると説明されている。



大槌町では、早期段階では問題の流れも明確で具体的な政策を導き出しやすかつたが、第3段階ではニーズが多様化する中で各アクターの意識を共有することが重要であり、そのための方法としての熟議の有効性が示唆された。今後起こるであろう災害後の教育復興に活かしていきたい。

本校では現在、震災の教訓を未来に活かす復興教育を広義の防災教育として取り組んでいる。地域資源を活用し、系統的な単元計画を立て、各学年で防災教育を実施している。例えば、1年生は避難経路の確認、2年生は公共施設の見学、3年生は地域の防災活動を学ぶなど、系統的に学習を進めている。4年生以上では、震災遺構の見学や桜の植樹などを通じて、震災の記憶を後世に伝える活動を行っている。また、大阪の豊中市立新田小学校との交流を通じて、防災学習の成果を共有している。これにより、児童は地域の復興に対する理解を深め、自分たちの役割を考える機会を得ている。

本校の防災教育は「いわての復興教育」そのものであり、将来、子ども達が陸前高田のまちを支える人材になることを目指している。これからも陸前高田を愛し、その復興・発展を支える人材育成に取り組んでいく。

### 教育実践発表Ⅲ

「被災者における  
いわての復興・防災教育の推進」

陸前高田市立高田小学校  
副校長 坂井ふき子

陸前高田市は、平成23年の東日本大震災で壊滅的な被害を受け、本校も津波で校舎が浸水した。令和元年に新校舎が完成し、国内外からの支援によつて子どもたちの学校生活は支えられてきた。



本校では現在、震災の教訓を未来に活かす復興教育を広義の防災教育として取り組んでいる。地域資源を活用し、系統的な単元計画を立て、各学年で防災教育を実施している。例えば、1年生は避難経路の確認、2年生は公共施設の見学、3年生は地域の防災活動を学ぶなど、系統的に学習を進めている。4年生以上では、震災遺構の見学や桜の植樹などを通じて、震災の記憶を後世に伝える活動を行っている。また、大阪の豊中市立新田小学校との交流を通じて、防災学習の成果を共有している。これにより、児童は地域の復興に対する理解を深め、自分たちの役割を考える機会を得ている。

本校の防災教育は「いわての復興教育」そのものであり、将来、子ども達が陸前高田のまちを支える人材になることを目指している。これからも陸前高田を愛し、その復興・発展を支える人材育成に取り組んでいく。



令和6年度 兵庫教育大学大学院

同窓会総会・全国研究大会【盛岡大会】

### 【ご来賓】

- 兵庫教育大学 学長 加治佐哲也 様
- 〃 理事・副学長 吉水 裕也 様
- 〃 副学長・事務局長 田中 賢一 様
- 〃 副学長 尾田 博明 様
- 〃 教育研究支援部長 高橋 信雄 様
- 〃 附属小・中学校長 富田 明德 様
- 〃 院生協前期会長 土井 健司 様

## 令和6年度 教育実践研究活動等にかかる表彰受賞者

### 役員推薦

賞	氏名	主な教育実践研究活動	専攻・コース・期
嬉野賞	大谷 哲弘 (京都府)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2010年より6年間、岩手県立総合教育センター支援指導部教育支援相談担当の研修指導主事として、児童生徒の支援、教育相談やカウンセリング等で若手教員の指導に当たった。また、『いわて「いじめ問題」防止・対応マニュアル』の作成に尽力した。</li> <li>2011年の東日本大震災後に、岩手県教育委員会事業「いわて子どものこころのサポートチーム」や「心とからだの健康観察分析チーム」の一員として、被災した児童生徒の心のケアに尽力した。</li> <li>現在は、立命館大学産業社会学部現代社会学科の教授として、変化の激しい現代社会の諸問題を解明するために、多角的な視点から考えることを学生に指導している。</li> </ul>	学校教育学専攻・臨床心理学コース 28期
嬉野賞	川村 庸子 (岩手県)	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩手を代表する教育者で、釜石市の中学校を皮切りに県内の中学校で教育に当たり校長職を務めた。現在もなお、社会に開かれた教育課程を目指した活動や若手教員の指導に当たっている。</li> <li>本学大学院第8代同窓会長として2期4年にわたり、同窓会の発展に寄与された。前回岩手大会では、発表者として登壇。今回盛岡大会では顧問として大会運営に関わった。また、ともに学ぶ同志とともに「コミュニティスクール構想」を岩手県全域に推進している。</li> <li>「生涯にわたって学ぶ。」を自ら実践し、本学大学院で昼間コース、夜間コースと二度にわたって学び、今も学び続けている。</li> <li>教育に対する崇高な理想と、瞬時の判断力を有し、教育者として、管理職として、そして同窓会長として、場に応じた判断や適応力を発揮され、同窓会を牽引してきた。</li> </ul>	学校教育専攻・教育方法コース 4期 教育実践高度化専攻・教育政策リーダーコース 38期

### 教育実践研究論文(奨励賞)

氏名	論文のテーマ	専攻・コース・期
甲斐 順 (神奈川県)	ペアによる音読指導を重視した英語授業実践	教科・領域教育専攻・言語系コース(英語) 20期
宮川 雄基 (兵庫県)	自閉症・情緒障害特別支援学級における、人間関係調整力・自己調整力の向上を目指して取り組んだ特別活動及び自立活動の実践	教育実践高度化専攻・授業実践リーダーコース 31期
日光 恵利 (富山県) 川口めぐみ (香川県)	保育学生の伝統的な遊びの実施状況と認識に関する研究	人間発達教育専攻・幼年教育コース 36期

### 令和5年度 退任役員

同窓会役員をお務めいただき、本会の発展にご尽力いただいた次の方々が、令和5年度末をもって役員を退かれました。本部活動はもとより、支部活動の牽引役としてその功績は非常に大きいものです。

これまでのご貢献に深く感謝の意を表します。

また、お二人には感謝状と記念品をお贈りします。

氏名	支部	期	退任時の役職
青木 雅夫	群馬	4	群馬県支部代表
菅野 恭介	兵庫	16	事務局長

令和6年度兵庫教育大学大学院同窓会総会  
第43回全国研究大会【盛岡大会】  
「おでんせ！ もりおか」



会報題字のイラストは同窓生がスクラムを組んで育む新しい教育の芽吹きをイメージしたものです

令和6年度 兵庫教育大学大学院同窓会役員

Table with 4 columns: 会長, 副会長, 専門部長, 監事, 相談役. Lists names and affiliations for the executive board.

Table with 2 columns: 支部代表. Lists names and affiliations for branch representatives across various regions.

Table with 3 columns: ブロック, 理事. Lists names and affiliations for council members by block.

\* ゴシックは兼務(再掲)

兵庫教育大学大学院同窓会 令和5年度(第42期) 会計決算報告書

自 令和5年6月1日 ~ 至 令和6年5月31日

【一般会計】

【収入の部】

Table with 5 columns: 科目, 予算額(円), 決算額(円), 増減(円), 摘要. Summary of income items.

収支決算合計 8,780,334 円

支出決算合計 4,249,721 円

差引残高 4,530,613 円

差引残高は、第43期一般会計の収入

(繰越金)に充てます。

【支出の部】

Table with 5 columns: 科目, 予算額(円), 決算額(円), 残額(円), 摘要. Detailed breakdown of expenses by department.

【運営積立金】

運営積立金は、同窓会活動の継続および必要不可欠な出費に備えて平成29年6月より定額預金(10年満期)として預けているものです。

現在高

Table with 3 columns: 科目, 金額(円), 摘要. Summary of the current balance of the operating reserve fund.

運営積立金は、次年度も継続して預けます

《お問合せ》

兵庫教育大学大学院同窓会事務局 兵庫教育大学修了生・卒業生連携センター 〒673-1494

兵庫県加東市下久米942-1 電話 0795-44-2406, 2375 FAX 0795-44-2376 (メール)

office-dosokai@ml.hyogo-u.ac.jp

### 同窓会総会・全国研究大会

参加者 59名 (オンライン 12名を含む)



### 情報交換会 参加者 43名



### 巡 検 (盛岡市内) 参加者 15名



暑  
い  
中  
お  
疲  
れ  
様  
で  
し  
た



皆  
様  
の  
お  
か  
げ  
で  
楽  
し  
く  
有  
意  
義  
な  
2  
日  
間  
と  
な  
り  
ま  
し  
た  
有  
り  
難  
う  
ご  
ざ  
い  
ま  
し  
た